

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 岸井瑞樹

1. はじめに

平成27年8月1日～23日の間、カナダのバンクーバーにおいて短期語学留学を行いました。バンクーバーでホームステイをしながら語学学校に通い、語学を学ぶと共にホストファミリーや様々な国の留学生と関わりを持つことで貴重な体験を得ることができました。その内容について報告いたします。

2. ホームステイ先では

私のホストファミリーは両親と子ども3人、ほかにブラジル人、ロシア人、スイス人の3人の留学生がいました。家での共通語は当然英語だけであり、初めはあまり会話に参加することが出来ませんでした。しかし、日が経つごとに異文化に触れることを楽しく感じ、他の留学生やホストファミリーとともに過ごす時間をとても大切に思うようになりました。ホームステイ先には、同国籍の留学生は居らず、自国の文化をお互いに学ぶことが出来ました。ホームステイ先で驚いたことは食文化で、朝食はシリアル、昼食・夕食はパンをほとんど毎日のように食べていることです。カナダに行くまでは、日本の食事の栄養面についてそれほど考えたことはありませんでしたが、カナダでの生活を通して日本食文化が注目されている理由が分かった気がしました。



[ホストファミリー]

3. 語学学校では

私は、今回の短期留学で Global Village English Centers という学校に通いました。校内では、母国語禁止という厳しい規則がありましたが、その規則のおかげで短期間でも英語に触れる時間が多くなり、言語学習がより効率的になっていました。1クラスの定員も少な目に設定されており、同国籍の生徒で偏らないようになっていました。午前の授業では、語学のレベルごとに決められたクラスで、文法を中心とし、その日習った文法を使ったゲームをしたり、グループやペアを作りお互いの国について紹介があったり、意見交換もしました。初めは、聞いているだけという場面が多くありましたが、他国のクラスメイトが積極的に発言する姿を見て、少しずつですが私も自分の意見を伝えることができるようになりました。午後の授業は、個々のニーズに合わせて選べる選択授業でした。入学時の面接で学校の講師のカウンセリングの元に決定しました。お試し期間もあり、後に個々のレベルにあった授業へ変更することもできます。学校には、休み時間や放課後、空き時間に利用できるプレイルームのような場所があり、様々な生徒とともにスポーツをしたりをしたりとリラックスできる空間でした。また、学校が放課後に企画してくれるアクティビティに参加することで、その土地特有の文化や生活を肌で感じることができ、校内での友達を増やすきっかけにもなりました。学校が企画してくれているものなので値段も安く、安全面も心配ありませんでした。



[クラスメイト]



[Global Village English Center]

4. アクティビティでは

Global Village ではほとんど毎日、放課後にアクティビティが企画されていました。毎月掲載されるアクティビティカレンダーを見て自分が参加したいアクティビティに参加できるようになっています。キャンパスのアクティビティ・コーディネータが企画するアクティビティはその土地や文化を肌で感じ、参加することによりクラス

ルームで学んだコミュニケーションスキルを世界各国からの仲間たちと実践し、楽しく過ごすことがコンセプトになっています。また、キャンパスの先生の引率の元行われるため安心して参加でき、アクティビティを通して自然と仲間との距離が縮まり、そのなかで自分の語学力も向上したように思います。

5. 最後に

私は、今回の短期留学でたくさんの貴重な体験を得ることができました。3週間というとても短く限られた時間でしたが、1日1日新たな経験を積み、新たな自分を発見できたように思います。学校での友達が増えることで学校がある日だけでなく、休日にも学校の友達とともに過ごしバンクーバーの観光をすることが出来ました。カルチャーショックを受けることも多くありましたが、それも今回留学に行けたからこそこの体験であり、私の視野を広げる良い機会となりました。

私は、今回の留学を通して世界の人々と繋がることの楽しさや大切さを実感しました。以前までは英語に対して自分から学ぼうという意思があまりありませんでしたが、英語を学ぶことで様々な国の言語や文化の壁を越えて繋がりができ、お互いを理解することが出来ることに気づかされ、英語が話せるようになりたいと強く思うようになりました。帰国した今でも現地で学んだ英語を忘れないよう、毎日英語を耳にすることを心がけています。また、他の留学生との交流を経て、自分の中ではっきりした目標や意見を持ち、それにむかい努力することの大切さを学び、たくさんの刺激をうけることが出来ました。単に語学を学ぶためだけでなく、将来を見据えてカナダへ留学に来ている生徒ばかりで、私も向上心を常に忘れることなく、社会に出ていく上で視野を広く持ちたいと思いました。

このような貴重な体験をすることが出来たのも国際交流基金の助成のおかげであり、大変光栄に思います。